

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

氏 名：服部航士（はっとり こうじ）

勤務先：公立宍粟総合病院

診療科：外科

卒 後：8年目

【経歴】

鳥取大学卒業

初期研修：公立宍粟総合病院

3年目：西脇市立西脇病院

4～5年目：公立宍粟総合病院

6年目：上半期 三田市民病院、

下半期 神戸大学医学部附属病院 食道胃腸外科

7年目：上半期 三田市民病院、

下半期 神戸大学医学部附属病院 肝胆膵外科

8年目：公立宍粟総合病院

【外科医になった理由】

私が外科医になったのは、初期研修を過ごした公立宍粟総合病院で出会った外科の先生方の人柄に惹かれたからでした。

学生の頃はいろいろな診療科に興味があり、「絶対にこの科に進みたい」というものではありませんでした。そんな自分が外科を選んだのは、研修医として働く中で、いつの間にか「何科になりたいか」ではなく、「どんな医師に憧れるか」という視点で進路を考えるようになったからだと思います。

宍粟で出会った先生方は、高齢化が進む地域の中で、自分の専門領域だけにとらわれず、目の前の患者さんに対して「自分に何ができるか」を考えて行動していました。その姿がとても格好良く、自分もこんな医師になりたいと思うようになりました。

その後、西脇や宍粟で外科診療を経験し、神戸大学では食道胃腸外科、肝胆膵外科で専門的な研修をさせていただきました。地域の病院では経験できない手術や専門的な診療を学び、外科医としてさらに成長することができたと思います。

そして今、8年目になって初期研修を始めた宍粟総合病院に戻ってきました。

研修医の頃に「こんな外科医になりたい」と思って見ていた先生方と、今度は同じ病院で働いています。立場は変わりましたが、今でも自分が目指している医師像の原点は、あの頃に宍粟で見た先生方なのだと思います。

【最近の出来事と今後の目標】

最近、子どもが生まれました。

医師になって8年目になり、これまで仕事のことばかり考えてきた自分にとって、子どもが生まれたことは、これからの人生について考え直す大きなきっかけになりました。

現在は単身赴任で勤務しているため、妻と子どもとは離れて生活しています。妻が育休中で、互いの両親にも助けてもらいながら何とかやっていますが、それでも、仕事をしながら家族で生活することがこんなに難しいものなのかと実感しています。

子どもが生まれる前は、「医師としてしっかり働くこと」が自分の人生の中心になるのだらうと思っていました。学生の頃には、医師になればある程度安定した生活ができ、家族にも不自由のない暮らしをさせられるものだ、と漠然と考えていたように思います。

しかし、実際に家庭を持ってみると、考えていた以上に現実には複雑でした。



医師として働けば働くほど、患者さんのために使える時間は増えます。その一方で、家族と過ごせる時間は減ります。責任のある仕事を任されるようになれば、仕事を簡単に休むこともできません。

これまでは、「忙しいのは医師なのだから仕方がない」と思っていました。

しかし、子どもが生まれてからは、それだけでは納得できなくなりました。

子どもが成長していく時間は戻ってきません。仕事は代わってくれる人がいても、父親として自分の子どもと過ごす時間を誰かに代わってもらうことはできません。

一方で、地域の病院で働く医師として、目の前の患者さんを置いて自分の家庭だけを優先することにも葛藤があります。地域の医療を支えることの大切さは、養成医としてこれまで働いてきた中で身をもって感じてきました。

だからこそ、今は「医師としてどこまで働くか」だけではなく、「医師として働きながら、どうやって家族との時間を守るか」ということを考えるようになりました。

正直なところ、まだ答えは見つかっていません。

義務年限が終われば家族と一緒に暮らせるようになる可能性はありますが、そこで夫婦ともにこれまで通り医師として働き続けることが、本当に自分たちにとって良い選択なのかも分かりません。

医師としてのキャリアを大切にしたい気持ちもあります。専門性を高めたいという思いもあります。一方で、家族と一緒に食事をしたり、子どもの成長をそばで見たりする時間も大切にしたいと思っています。学生の頃には、こんなことを考えるとは思っていませんでした。

医師になることがゴールではなく、医師になった後に「どんな医師として、どんな生活を送りたいのか」を考えることも大切なのだと、今になって感じています。

養成医として働く中で、私は多くの地域の病院でたくさんの先生方に指導していただき、外科医として成長することができました。地域医療に貢献したいという気持ちも、外科医として成長したいという気持ちも、今でも変わっていません。

ただ、これからはそれに加えて、家族との時間も大切にできる医師になりたいと思っています。

義務年限を終えるまでの間に、自分にとっての「医師としての働き方」をもう少し考えてみたいと思います。

8年前、宍粟総合病院で初期研修を始めたときには、8年後に自分が同じ病院に外科医として戻ってきて、結婚して子どもが生まれ、こんなことを考えているとは想像していませんでした。

これから先も、きっと悩みながら進路を決めていくのだと思います。それでも、研修医の頃に憧れた先生方のように、専門科や立場にとらわれすぎず、目の前の患者さんに「自分に何ができるか」を考えられる医師でありたいと思っています。

そして、医師としてだけではなく、家族にとっても「一緒にいてよかった」と思ってもらえるような人間になれるよう、自分なりの働き方を探していきたいと思っています。

